

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600077		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)		
所在地	千葉県八千代市八千代台南3-2-32		
自己評価作成日	平成24年1月	評価結果市町村受理日	平成24年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座6-5-12 みゆきビルbizcube7F
訪問調査日	平成24年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族、地域の方々と支え合いながら暮らしていける温かみあるグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

なごみユニットの理念として「共に支え愛、どんな時も笑顔を保ち愛情あふれる」を掲げ、職員間で理念を共有し、日々の支援に反映している。なごみユニットでは、介護度の高い利用者の方も増えてきているが、職員間で様々な意見交換を図りながら、全利用者が楽しく快適に生活できるよう支援している。ホームとしての取り組みでは、地域交流拡充を目指し、昨年度に引き続き餅つき大会の開催やホーム3周年祭を開催し、地域の方やボランティアを交え実施することができた。今後に向けては地域交流の継続のほか、職員育成に向け前向きに取り組んでいく姿勢が窺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼後、事業所理念を唱和している。また、各ユニットの理念に基づいたケアに努めている。	なごみユニットの理念として「共に支え愛、どんな時も笑顔を絶やさず愛情あふれる」を掲げている。また、会社の理念(そよ風憲章)、を事務所に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	餅つき大会や3周年祭では地域住民にも参加して頂いたり、ボランティアや近隣中学生の福祉体験の受入れも行っている。	地域との交流では、ホームで開催した餅つき大会に地域の方をお誘いしたほか、ホーム3周年祭においては、ボランティアの方を招いている。また、中学生の職場体験学習の受け入れなど、利用者が様々な方と交流できる機会となっている。	地域との交流をより深めていくために、運営推進会議等を通じて地域情報を収集し、多くの地域資源を活用しながら地域との交流が深まっていく事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を対象に『そよ風かいご塾・認知症サポーター養成講座』を開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加して下さっている方々から、毎回貴重なご意見を頂き、連携を取らせて頂き、サービス向上に努めている。	運営推進会議には、介護相談員、民生委員、家族の方が参加し、ホームの運営状況のほか利用者の様子を伝え、参加者との意見交換を実施している。会議議事録については家族へ配布し情報共有に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスや受入れに関して不明な点を相談させて頂き、連携を取らせて頂いている。	市の担当者との連携に関しては、定期的に入居状況等を報告や、困難事例の相談等、必要に応じて連携が図れる体制を築いている。また、2カ月に一度介護相談員の来所もあり、相談員とも連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は身体拘束を行っている方は居りませんが、ミーティング等で勉強会を行い、正しい支援に努めている。	身体拘束廃止に向け、ホーム内において「身体拘束廃止研修」を実施し、不適切な対応につながらないよう取り組んでいる。現状、玄関の施錠も含め、身体拘束につながる行為は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い支援内容の見直しや、防止に努めている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が居り、資料回覧し、学ぶ機会には設けているが、実際には家族対応で行っているため、支援体制が万全とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って細かく説明させて頂いている。特に起こりうるリスクや退去解約、看取り等は十分に説明する時間を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ではご家族の意見や要望を伺い、面会時にも気づいた点等、お話を伺い、サービスに反映出来るよう取り組んでいる。	ホーム内外の苦情窓口に関しては、重要事項説明書に明記し、契約時家族に伝えている。家族からの意見や要望は、面会時のほか、運営推進会議時での収集等、日常的に意見が言える機会を提供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニットミーティングで職員が意見を言える場を提供している。また、個別に面談も行っている。	職員からの意見の収集については、事業所センター長を交えての面談の実施のほか、ユニットミーティングにおいての意見収集、また、日常的にも管理者から職員に声をかけるなど、職員の不安等が早期に解決できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な職員との面談を実施し、現在の評価と課題を本人と話し合い又、現在の不安や不満を吸い上げる機会を設けている。雇用期間の更新時には実績により給与のベースアップを図り、モチベーションの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはベテラン職員がフォローに付き当施設独自のプログラムにより、無理なく業務の修得に努め、分からない点はその場で解決する仕組みで行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の他施設の管理者などと情報を共有する機会を月/1回で設けているが、社外の勉強会や研修は現状不足しており、個々人の取り組みに一任している。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご本人様にお会いし、お話を伺い生活状態を把握するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯やこれからの要望を伺い、センターとして、どのような対応が可能か話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談を基に本人や家族の思い、状況等把握し必要とする支援に繋げられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニット理念にもあるように教えて頂く場面も作り、共に支え合える環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には細かな状況報告を行い相談させて頂き、一緒に支え支援していく為の協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節毎の手紙や電話での連絡を取り、関係が途切れない様支援している。	馴染みの人や場との関係継続の支援に向けて、友人の面会や通い慣れた美容室の継続利用、帰省等を通じ、これまでの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、情報を共有し、その時の状況に応じ職員が間に入るなど対応している。また、隣ユニットとの交流の場も設けている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今現在は、退去された方との連絡は取れておりません。今後は必要に応じて対応させていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、希望や意向の把握に努め、家族も交え検討している。	利用者の思いや意向に関しては、日常会話からの聞き取りのほか、ケアプラン作成時におけるアセスメントにおいて、本人の要望のほか、日常生活動作状況等の確認、現状の課題やニーズを抽出し、利用者一人ひとりの支援方法を明確にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に本人、家族からの情報を頂き、その後も日々の会話や関わりの中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、本人の状況を把握し記録に残し、現状を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて三社会議を行い、課題に対してそれぞれの意見を反映し現状に合ったプランを作成している。	ケアプラン作成においては、アセスメントにおいて利用者のニーズや課題を抽出し、ケアプランに反映している。また、ケアプランに沿った支援を図るために「介護援助計画表」を作成し、日々の支援がケアプランに即した形で提供できるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録に日々の様子や状態を記入し職員間で情報を共有しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに応じ、柔軟な支援を行っている。(個別外出や、当施設の他サービスの大浴場の試用等)		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーに買い物に出かけたり、美容院を利用したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を受けられる方と、掛かりつけの主治医に受診される方とおられます。どちらも生活状況をご報告し、適切な医療が受けられるよう努めている。	利用者が適切な医療を受けられるように、月2回、提携先医療機関による往診が受けられる体制がある。また、利用前に罹っていたかかりつけ医へ継続して利用する事も可能であり、利用者が必要な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時には、センター看護師に報告助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来る限りお見舞いに伺い、関係者から情報を頂き、退院前には、退院後のケアについてDrから家族への説明に同席させて頂き、退院後も安心して生活して頂けるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームで出来る事を、往診医と連携し対応していることを説明し、状態に応じて話し合いの場を設けている。	重度化や終末期に向けた方針に関しては、ホームとしてできる事を家族に契約時に説明しているほか、職員向けに看取り介護に関する研修を実施し職員の理解も深めている。重度化や終末期を迎えた際には、家族、かかりつけ医、職員が連携を図り対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えて、ユニット勉強会を行っている。また、今後は消防署の講習会にも参加して技術を修得していきたいと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、地域の方々に有事の際の協力を仰げるよう行事や、センター内の見学を行っている。	消防訓練は年2回定期的に実施している。訓練では消防署の立会いの下、消火、通報訓練を実施している。近隣との協力体制の確保に関しては、ホームを見学して頂き、利用者やホーム内の様子を理解して頂き、協力体制を呼び掛けている。	災害時に備え、定期的に避難訓練を実施しているが、今後に向けては、災害時における具体的なマニュアルの作成も必要と考える。

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関する研修を実施すると共に、その方に合った声掛けを行っている。	利用者のプライバシーの確保に向け、ホーム内において、プライバシー保護の研修を実施し、利用者に対する声かけや対応について不適切な行為につながらないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日の日にはお好きなメニューを伺い提供している。又、外食時にも好きな物をエアランで頂くよう個別対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の行きたい所へへの外出を出来る限り支援できるよう個別対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	頭髮の乱れ、食後の衣服の汚れ等、さりげなくお声掛けさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来る範囲で、調理及び配膳などを手伝って頂いている。	食事に関する一連の作業では、利用者の状態を考慮し、調理や配膳、食材の検品作業等、利用者と一緒に取り組めるよう支援している。また、行事の際にはイベント食の実施やユニット合同での外食などを通じ食の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態、トロミ対応等、その方に合わせた食事の提供を行っている。毎食の食事、水分量も記録に残し把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施。義歯の方は就寝前洗浄剤にて消毒している。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄チェック表を記入し、排泄パターンを知る事により、排泄の失敗を減らす取り組みを行っている。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては「排泄チェック表」に記録をし、排泄パターンや状況を把握している。排泄時にはできる限り定時の声かけや誘導により、トイレで排せつできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の働きを良くするため、毎朝ヨーグルトや野菜ジュース、乳酸菌飲料を飲んで頂き、なるべく薬に頼らないよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回は入浴して頂けるよう支援している。又、センター内の大浴場も希望に合わせて対応出来るようにしている。	入浴については、利用者の要望に応じていつでも入浴できる体制を築き、無理強いを避け、利用者の希望やタイミングに合わせて入浴できるよう支援している。入浴中は、職員が介助に入り安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況に合わせて、日中30分～1時間程度の休息を取り入れている。又、お気に入りの音楽を流し、安眠して頂けるよう支援している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量、効能を把握できるよう、配役表を作成している。薬が変更になった際には、日々の状態を細かく記入するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除機掛けや洗濯物干し等、ご自身の役割として行って下さる方もいる。又、囲碁を楽しみにされている方もおり、隣ユニットとの交流もお紺sっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿って、買い物等外出して頂けるよう、出来る限り支援行っている。	各ユニットにおいて、年間行事計画を策定し、お花見や外食、ショッピングセンターへの外出等利用者の希望も取りながら、戸外に出かけられるよう支援している。外出行事以外にも天候の良い日にはホーム周辺の散歩に出かけられるよう支援している。	

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事により安心感を得られる方もいらっしゃる為、ご家族と話し合いの上、少額の現金を所持して頂き、買物等の際、ご自身でお支払いして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある時には、本人自らご家族に電話されている方もおられます。又、季節に応じた手紙、はがき等も家族宛に郵送して頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内には、季節に応じた、飾りつけを行い、制作物、行事写真等掲示し、温かみある居心地良い空間を提供出来るようしている。	ホーム内はバリアフリー設計であると共に、廊下やトイレ、浴室など転倒の危険となるものは放置せず、安全面に配慮している。共用スペースには、行事实施時の写真の掲示や居室前には、利用者の写真の掲示など、掲示物にも工夫を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前にソファを置きそれぞれのお好きな場所で過ごしている。又、囲碁や将棋を楽しんで頂けるような、テーブルの配置も考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人や家族の好みに合わせ、飾り配置を行っている。自宅でお使い慣れた物をご使用されることで安心して生活が送れるよう支援している。	居室においては、自宅で使い慣れた物の持ち込みを可能とし、居心地良く暮らせるよう配慮している。また、家具類の配置等も家族や本人の要望に沿って対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内等に手すりをつけ安全で自立した生活が送れるよう支援している。		